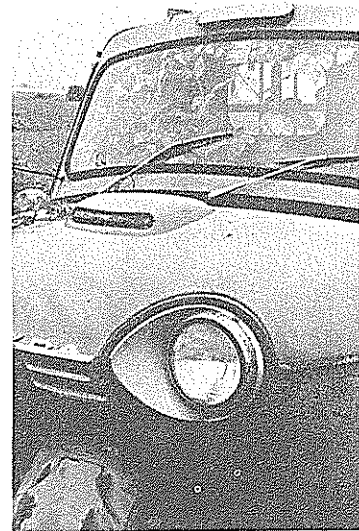


市民のひろば



無賃乗車—里改田で—

民具館の建設を

長岡民具保存会長
北岡 博



民具とは一般庶民の日常生活から生れた長い間の生活の知恵であり工夫である。即ち南国市の民具に例をとると、南国の先人が豊かな自然に順応し、時にはきびしい生活に挑戦して生み出した遺産ともいうべきものであつて物言わぬ郷土の歴史でもある。ところが社会生活や生業の移りかわりでその実用性が失われると、もうその日から廃品となり厄介なものになつて消えてしまふ性質をもつてゐる。こうした事を考えると我々は今直ちにこれを調査し、蒐集し保存保護の策を講ずるのでなかつたならば、日一日と散逸し消滅して、民族の生活の推移を理解するのに大切な、かけがえのない資料が失われてしまふことになる。そして先人の真情にふれることも出来なくなつて血の通わない文明の機器

親子クイズ(24)

ご家庭で話し合つてこたえてください。こたえは今月号の広報にでています。
▼もんだい
①動物愛護週間にちなんだマンガでおばあさんと寝ているのは○○です。
②南国市展は11月○○日より開かれます。
③ふるさとの歌まつりの公開録画は9月27日に○○体育館で開かれます。
▼しめきり・9月30日
▼おくり先・南国市大塚、南国市役所内広報委員会、親子クイズ係、〒783
▼しょうひん・特賞2,000円、1人、残念賞(記念品)10人

★特賞に窪添雄敏さん(植野)

第23回の正解者発表
▼こたえ・①=④⑩戸、②=①③④、③=⑤①④件でした。
▼特賞・2,000円、窪添雄敏(植野) 残念賞(記念品)・門田昌明(植野) 島田啓子(領石) 大野純輔(前浜) 浜田雅子(岡豊) 松村光鶴子(井ノ沢) 中司吉彦(岡豊) 田内成幸(片山) 土居千代子(十市) 北岡幸雄(物部) 西原美奈子(中谷)

コスモスの花

少し冷たく、匂はしく、清く、はかなく、たまたよと、コスモスの花、高く咲く。

秋の心を知る花か、うすもいろに高く咲く。

(「晶子詩集全集」) 日差し短くなる頃、どことなく寂しげな表情をもつて咲くコスモスの花。

そと秋風になびくその風情は、晶子の胸裏にうつつとすするものを和らげてしまつたようです。あのうすもいろに高く咲く冷たい花むららは、女性の心に咲く花なのかもしれません。「コスモスと少女」そんな可憐なイメージから、ことしは秋

朱陽子(園分)

私の「空襲体験記」より

くろけむりうすまき流れ逃げまどう人の例にも落つ焼い弾たちこめる余じんの上になうちふして泣き叫ぶ声いまもきこゆる目をおおうくれんの炎にやけし夜をさかいたなして落ちてゆく群れゴミの如く川面の上にさらされてうかびたよう赤子の死体倒れし木やけたる草のひとつだに愛たちがたぎいのちなりしを

刈谷益子(後免)

復元には特殊な技術が奉仕され、整理と分類には、主として学校の先生方のお力によつた。

翌四十七年二月には第一回の民具展を開催、地区内外から数百人の方々が観覧下さつて、今後の方向についてかすかすの有難いご指導や激励をいただいたことである。じらい、民具の供出も毎日のようになつて今や六百点を突破しようとしてゐる。

今後これら民具の保管と活用については、なお幾多のこのされた問題があるので、皆さんの協力



梅雨とも思えぬ快晴の一日、龍ヶ洞スカイラインの三宝山山頂より

り南国市を眼下に見渡しながら私は昨日、今日と二日間にかけての龍ヶ洞での商工会婦人会に出席した感激に胸をふくらませていた。「商工会」とは目と鼻の所に住み、恥しながら私はこのような良い会のある事を今まで知らなかつた。

四、五年前だったか一度、出席者がいないので行つてほしいと、近所の方からお誘いをうけて、「ドクトル・チエコ」の講

井の中の蛙

ことで、各地区の実況報告に、ただ驚きという他なく、このような会外に住んでいようかつた、愚かさ、全く井の中の蛙と笑われても仕方ないと思つたのであつた。

今年に於ても、二月に手結の海風荘で一泊二日、三月洲本市(徳

ご指導を得て、より立派なものにしたいと念願して二、三の希望をのべてみた。

まず第一に民具は一室に蒐集するだけでは死物に近く、生きた利用価値が少ないのでこれを展示する民具館の建設を市に要望したい。その二は、民具は長い年月の間に先人の生きた生活と民具の結びつきがわからなくなるので絵や文による詳細な説明書を備付する必要がある。なお、のぞむらくは、ある民具を現に使つてゐる地域に出向き、あるいは民具を今も使用して

話を高知に聞きに行った事を思い出したがあれ以来のことである。会に出席させて頂き、第一に感じたことは、

いる人々をさがしとめてフィルム化しておけば後世にこの貴重なものになると思はれるのでその実現を期したい。

最後に民具は、その性質上その土地、その人々の工夫によつて生れるものであるかぎり、市内の各地区には、またそれぞれ特徴のある民具があつた。山村には山村の農村には農村の、漁村には漁村の各地区に同好の市民による民具館が建設され、やがては市の中央に立派な郷土資料館が生れることを心から期待するものである。

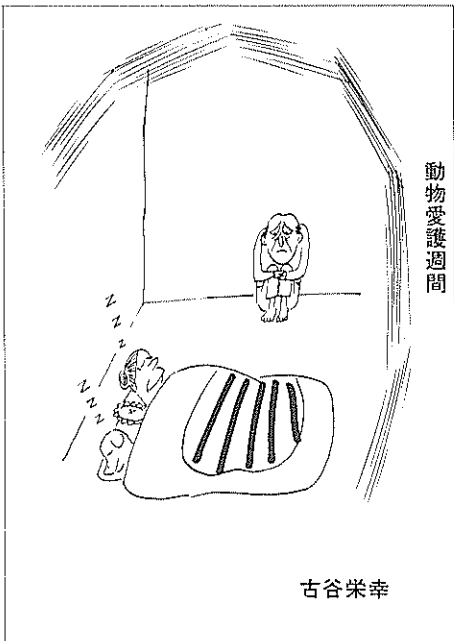
広報短信

広報なんこくは、この四月から月二回発行にとり組んでいますが、いかがでしょうか。

企画・編集について、地区連絡員さん、市の課長さん方のご意見もお聞かせいただき、広報委員会でも、いろいろ研究してきました。

そのなかで、八ページで月二回発行は、市のお知らせが主体となり、単調な「お役所広報」としての色合いが強くなる。こんな反省がありました。

そこで、もう少し内容のある企画記事、市民参加のページづくりにとり組もうと、来月一日から一日号は十二ページ、十五



古谷栄幸

日号は四ページにすることにしました。

一日号は「あなたがつくる広報なんこく」をテーマに、広報座談会を主体にした企画記事、市民のひろばのほか、婦人、若人を中心とした家庭欄、そしてカメラ、ルポとライイチイに富んだ紙面つくりを考えています。

また、十五日号は市のお知らせ一本にため、「お知らせ版・広報なんこく」とすることとし、お知らせ事項を、よりやさしく、よりわかりやすくまとめたと思つていきます。

このため、市民のひろばなどの原稿しめきりは、毎月十日になります。市民の声、つくし、課長対話など、どしどし原稿をお寄せください。